

寺報

平成二十八年一月
第七十三号

正念寺護持会発行

常陸太田市久米町二十一

電話 〇二九四一七六一二〇五八

FAX 〇二九四一七六一〇一六九

伝灯奉告法要のご案内

一昨年六月に即如門主から専如門主に代替わりしましたが、それを宗門内外に奉告するお勤めが今年の十月から来年の五月にかけて行われます。その内、茨城東組では来年三月三十日、四月一日にかけてと、五月二十九日から三十一日までの二回に分けて参加する事となりました。正念寺では、三月三十日から四月一日にかけてお参りに行く事になりました。まだ先の事ですが、今年十月が申し込み締切になっておりますので、お早いお申し込みをお願ひ致します。

細かな日程については、直接寺に問い合わせ戴きたく存じますが、予定としては水戸を三十日午前八時十分の特急で東京駅まで行き、新幹線に乗り換え京都へ向かいます。駅からはバスで本願寺へ向かい伝灯奉告法要に参拝します。法要が終わりましたら、琵琶湖温泉で初日の疲れを癒やして戴き、二日目はきれいに修復された宇治の平等院から奈良の東大寺を見学して、海の見える鳥羽シーサイドホテルが二日目の宿になります。最後の日は、ミキモト真珠島で目の保養をして、伊勢神宮を見学してから真宗高田派のご本山にお参りして、名古屋駅から帰宅というコースになります。

前門主の伝灯奉告法要の折には、私はまだ京都に住んでおり、勤



式指導所というところで声明の勉強をしておりましたが、法要の時には駆り出され、法要に参拝される方がバスを降りてから堂内への案内係などをしておりました。

ともあれ、親鸞聖人から二十五代に渡ってその教えが受け伝えられてきた事を改めて考えますと、その間には宗門の浮沈も何度もありました。比叡山からの荒法師に攻められた事や日蓮宗徒による焼き討ち、あるいは織田信長との十年戦争。その後も徳川家康による本願寺の二分騒動や、明治期の廃仏毀釈の嵐。そして第二次世界大戦時の教行証文類の塗りつぶしなど、何度も教えの土台を揺るがす事件に巻き込まれてきました。そのような苦難を乗り越えて現代の本願寺があるのも、浄土真宗のご門徒の方々がしつかりと教えを戴き、生活の中での実践を通して代々受け伝えてこられたからだと思います。この伝灯奉告法要は、単にご門主の代替わりと言うだけでなく、私たち先祖の方々を守り抜いてこられた教えを次世代に受け伝える大事な御法要でもあります。その御法要に、沢山の皆さまと一緒に参りしたい事があります。

記

日時 平成二十九年三月三十日(木)

四月一日(土)

水戸駅発(八時十分)予定

参拝・観光

西本願寺(伝灯奉告法要)

宇治・平等院

奈良・東大寺

伊勢神宮

真宗高田派本山専修寺



しんらんさま

【第二回】

親鸞さまは、青蓮院で得度(髪を剃って僧侶になる儀式)をされるわけですが、日野の里(秀吉築城の伏見桃山城から東に四キロほどの場所)から青蓮院までは直線距離でも十数キロ以上はあります。道が曲がりくねっていたうえ、上り下りもある事を考えると、五割増しとして約二十キロ近くになるでしょうか。さらに、山科と市内の間を分かつ山があります。この距離を子供の足で歩くわけですから、到着する頃には日も暮れかかる頃になった事でしょう。

青蓮院の院主(慈鎮和尚慈円)は、親鸞さま(当時は松若丸と言った)にもう夕暮れになっていますので、これから得度をすると言半にまでかかってしまいますので、得度は明日にしたら如何ですか、と仰いました。そう言われた時「明日ありと思う心のあだ桜 夜半に嵐の吹かぬものは」と詠まれたと言われ、咲き誇っている桜も夜に吹く嵐で散ってしまうかもしれない。どうか今すぐに得度をして下さい、と返答されたと伝えられております。その歌を聞き、そのまますぐに得度式を行い、僧侶としての名「範宴(はんねん)」をいただきました。得度式を終えた範宴(親鸞さま)は、比叡山に登られ、修行生活に入られる事になります。

ところで、比叡山に範宴(親鸞さま)の記録が無い事から、明治期には歴史学者から「親鸞非実



常行三昧堂

在論」を称えられたりもしましたが、大正十年に西本願寺の蔵から「恵信尼(親鸞さまの奥様)」さまから娘の覚信尼に宛てた手紙が発見された事によって、親鸞非実在論は退けられました。その恵信尼さまの手紙の中に、親鸞さまは比叡山で「堂僧」をしていたと書いてあります。この「堂僧」とは、常行三昧堂で阿弥陀仏の周りを回りながら昼夜の別なく念仏を称える修行を行う僧侶の事を指します。地位的には最も低い位の者で、下働きのようなものであったのだろうと言われております。

そして「正明伝」に依れば、範宴(親鸞さま)は十九歳の時に聖徳太子の廟(叡福寺)に三日間参籠するのですが、二日目の夜に聖徳太子が夢の如くに現れ、「お前の命が尽きるまで十年ほどであり、命終わると速やかに浄土に入るだろう」と範宴(親鸞さま)に告げられます。そしてこの夢告こそが十年後に六角堂に参籠した理由の一つであろうと言われております。ともかく余命十年という夢告を受けた範宴(親鸞さま)は、更に修行に精を出すのですが、当時の比叡山は、僧侶としての技量より、家柄などの出身によって出世が決まっていた世界でした。十年と自分の時間が限られた中で、どれほど必至に学問しても、修行に精を出しても、その努力が報われない世界である事への疑問や、二十代という若い身に起こる様々な衝動など、範宴(親鸞さま)にとっては大変な苦悩を抱えながらの仏道修行でした。



生活の中の仏教語

意識があるとか、相手を意識するとか使われる『意識』という言葉。これも仏教の言葉だつて知っていましたか？

私たちは、眼でものを見て、耳で音を聞いて、鼻でにおいをかいで、舌で味を味わい、身(からだ)で触れて感じる。これを五識(それぞれ眼識・耳識・鼻識・舌識・身識)と言いますが、この次に『意識』がきます。これは「心」を指していますが、前の五識が、私たちが見たり触れたりする器官を通してそれぞれ別個に現実を認識するのに対して、意識は経験した事を通して物事を見直してみたり、想像力を働かせてみたりすることが出来る心の働きです。

以前私の友人の子供さんが、友達の家に遊びに行った時にストーブ(上にやかんを置いてお湯を沸かせるタイプ)の上に手を置いてやけどをしたという話を聞きました。その子の家にあるストーブは、火傷などをしないように「ファンヒーター」ばかりだったようで、触ると火傷をして危ないという事を知らなかったのです。家では、ストーブの上に手を置いても安全だったのですが、この経験を通して、ストーブの上に手を置くと危険なストーブもあると言う事を学んだわけです。ですからたぶんこれ以降は、このストーブは手を上に置くと危なそうだ、と経験をを通して想像力を働かせていく事だと思いますが、そういうものが「意識」の働きというわけです。

こうして自分の事なら経験をを通して取捨選択していけるでしょうが、これが対人関係になると、私たちは自分中心に物事を見たり考えたりしてしまいがちです。こうなると、自分の思い通りにならない時には、あいつが悪い、あいつのせいで、とそこに恨みを生んでいきます。それが諍いに発展します。これが、国と国・民族と民族などの諍いだ、戦争へと繋がっていきます。

戦争はいけない事だと、たぶん誰もがわかっていながら、戦争を

起こしてしまうのは「心」が自分の思い通りにならないからなのでしょう。お釈迦様は、思い通りにならない「心」を思い通りにしたいと思う所に問題があると仰り、自分の「心」を制御する事が大切な事であると仰いました。それこそがまさしく「仏教」の教えであります。

ご門徒さん紹介

今回からいろいろな特技を持ったご門徒さんを紹介させていただきます。第一回目は、パン粘土(小麦粉を原料にした粘土)で作られた、本物と見紛うほどの花や果物などを制作された大方町の荻津佐知子さんです。



千両と福寿草



牡丹の花



果物



バラの花束



作者の荻津佐知子さんとお孫さん

感謝録

「ご寄付を戴きました事に感謝を込めてご報告させて戴きます。」

一、父の永代経として

金 貳拾万円

根本 雅美様



前のご報告させて戴いた後にお仏供米をご奉納戴いた方々をご報告させて戴きます。

常陸太田市

小菌 浩文様

勝山 芳和様

那珂市

浅川 和則様

片岡 稔重様

平山 俊夫様

常陸大宮市

坪井 誠様

教えて下さい

「ご門徒紹介」のコーナーでいろいろな方をご紹介したいと思っております。自薦他薦を問いませんので、特技を持っている方やすごい農作物を作っている方、その他是非この人紹介したいと言う方など、どしどし寺の方にご連絡下さい。

また、寺報に載せる原稿も常時募集しております。こんな料理美味しいよ、と言うようなものでも結構です。こちらも是非いろいろと教えて下さい。

最後にもう一つ。この寺報の編集をしてやるという方、いらっしやいませんか？お寺で作っている寺報はおもしろくない、俺が作ればもっと面白くなるぞ、と言う方がいらっしやいましたら、是非寺報の編集をお願いしたいと思っております。

寺の発想で無く、皆さまの発想で、是非読んで楽しい「寺報」を作りたいと思っております。

どうぞご協力お願い致します。

住職雑感

年が明け、東日本大震災からもうすぐ五年になりますが、東北の津波の被害を受けた地区や原発被害を受けた地区は、未だに復興もままならない状況にあります。地元茨城に目を転じて、未だに仮住まいや崩れたままの屋根などを見かけます。

大震災以降も大規模な土砂崩れや大規模な水害など、自然災害が続いています。私たち日本人にとってみれば、次から次へと苦難が襲ってきている状況です。

このような時私たちの心は荒びがちになります。関東大震災のあとも「朝鮮人が武器を持って暴動を起こしている」とか「井戸に毒を入れている」などの噂が広まり、多くの朝鮮人が命を奪われた事実があります。

現代に目を向けると、在日朝鮮人・韓国人へのヘイトスピーチが盛んに行われています。韓国での反日行動が、日本でのヘイトスピーチに輪をかけているという面もあるでしょう。しかし、日本には「他人の振り見て我が振り直せ」という言葉があります。他人がやるからやり返すので無く、自分がされて嫌な事は、他人も嫌な事である事をしっかり理解して、自らの行動を反省・規制していくのが、日本人として言うより、人間としての道では無いでしょうか。